

# 未刊の『釣場図集』

伊藤桂一

私は出版社の一編集員であったころ『釣の新百科』という本を手がけたが、そのあと『関東周辺釣場図集』を企画しながら、出版社をやめてしまったので、そのままになってしまった。

その後、三年にわたる病氣療養のため、ほとんど釣りにも行かなかったが、仕事のあいまいに頭をかすめたのは、この『釣場図集』のことであった。私には私なりに構想があったのである。

釣場の案内書というものは、釣りと釣場に関する懇切な記述のほかは、要点を得た

釣場地図の作製技術、及び綿密な編集方式が三者一体に組み合わせられなければならない。しかしこの仕事は、非常な手間と時間を要するので、とうてい片手間にはできないし、現在も私の、編集者の夢として残されているものである。

だいたい編集業務というのは、長くその職にあるとそれが第二の天性のようになってしまつて、その職をやめようと、一種の欲求不満が出てくるものである。従つて私の場合も、それを解消するために、同人誌に口を出したり、戦友会の戦史編集を引きうけたり

して、仕事を余分に忙しくさせてしまつたりしている。それで結構たのしいのである。

私はこの『釣場図集』発刊の下心があつたので、どこへ釣行に行つても、必ず釣場の写真を撮ってきた。釣場写真というのは、一目瞭然に釣場の概況を示すのが目的だから、芸術的——ということとは第二義である。その写真を一見すれば、河相、流速、川虫の採捕の可能性、毛鈎の効果、棲息している魚種、強風に際しての遮蔽物の有無等が、釣り人にすぐさま参考になるようであればならない。

もちろんその写真を解説するにつつては、四季の釣り方、餌の使い方等も充分に説明されなければならない。釣り方にしてもヤマメの場所など、トコ場で浮木下を地底から五寸切るか切らないかで、甚だ釣果の違つてくる川もある。私はヤマメの餌釣りの要点は、原則として浮木下の調節だけだと思つている。仕掛などは気休めに疑つてみるだけで、行きつくところは、子供の

考えるようなごく単純なものにかえってしまふのである。新聞雑誌の釣り記事に、たまに浮木下のことをこまかく書いている人があるが、親切な指導である。

そういう人は餌についても、ていねいに教えている。私は元荒川の寒ヤマベ釣りで、ポツタしか効果がなく、結局坊主（あぶれ）で引きあげたことがあるが、餌をなにするかという問題の大切さをそのときしみみ考えたものであった。槻川や川音川（酒匂支流）のヤマベ釣りの場合、毛釣は別として、餌はその川の特定の川虫でないと効果があがらない。久慈川の太子辺になると、ほかの川ではみかけない川虫を使う。サシではほとんど効果が無い。こういうことは、一般の釣り記事にはなかなか記してくれないので、はじめて行く人は当惑することが多いのである。

天竜川のヤマベは、ウドンにヌカをまぶした餌で釣る。この餌だと、そのポイントにいるヤマベが根こそぎくるが、サシだと途中であきらまれて、場所を変えないと釣れ

なくなる。従って釣り方も違い竿からして違う。硬目の胴調子である。

毛釣にしても、昼間はあまり追わない川と名栗川のように、一日中毛釣だけがいい、という川もある。こういうこまかな点まで、懇

切に記す釣場案内——というのが、私の編集方針の一つでもあった。ことに海釣りの場合は、現地で餌が入手できないと、まったく落胆することがある。いつか館山で、小潮で餌の入手が少なく売切れていて、仕方なく餌なしで防波堤へ行き、カニを追っかけてくらし。カニを餌にするつもりで追っかけているうち、カニというのはおそろしく敏捷で、つかまりそうになるまではじっとしているが、手を出すと反射的に逃げたり、穴の中に引っ込んだりする。おかげでカニを追っかけているうちに、日が暮れかけてしまったのである。こっけいなことだが、私は海釣りをほとんどやらないので、様子がわからなかったのである。

あとで、防波堤で釣っている子供のをみたら餌はカツオの切身であった。それでカイズ

をちゃんと釣っていたのである。館山では私の戦友が漁師をしているが、きいてみると、なにを釣るにも身餌（みえさ・魚の切身）だといっていた。

ところで『釣場図集』のことだが、これは、あまりに手数が多いので、多少し楽な釣書でも手がけようとのころは考えている。随筆集のようなものである。著者にも編者にもならず、蔭の編集者として、本の裏面にもぐるのである。このふしぎな楽しみは、こういう仕事に携わった人でないと、わかってもらえないだろう。作品を仕上げた時と、本を一点たんねんに仕上げた時と、どちらが嬉しいかといわれたら、どちらともいえない。本作りだけを生きがいにして、十五年薄給にあえいできた編集者としての後遺症は、どうやら簡単には消失しそうもなく、『関東周辺釣場図集』は幻の恋人のごとく、わが脳裏から去りそうもないのである。